

お上に反対 孫に胸張りたい

僧職

(広島県 85)

安全保障関連法案に反対する学生グループの活動を「戦争に行きたくないという自分中心の考え」と批判した国会議員の発言をどう思うかと、高1の孫娘に問いかけしてみた。すると即座に「戦争に行きたくないのは当たり前じゃん。それをどうこう言うんだったら、自分が行ってみせてよね」と返ってきた。我が意を得たりと思つたものの、そのあと「でもねー、政府の言うことにはなかなか反対できないよねー」の言葉が重くのしかかった。

たしかに安保法案について国民

の賛否は分かれているが、両者の立ち位置は決して対等ではない。

賛成意見のバックには時の政権があるのに対して、反対を主張するためには権力と対峙しなければならぬというハンディを背負っている。戦後民主主義が育ってきたとはいえ、「お上」には逆らえないという風潮はいまだ根強く残っている。にもかかわらず反対世論がここまで盛り上がっている事実は何を物語っているか、言わずと知れたことだ。

私も及ばずながら安保法案反対の声を上げ続けて、「じいちゃんたちの主張が政府に勝ったぞ」と孫の前で胸を張りたい。